

# Teens Press

ティーンズプレス 10代のあなたへおくる

第9号 2021年11月発行

発行：世田谷区立中央図書館

(世田谷区弦巻3-16-8)

電話：3429-1811

FAX：3429-7436

## セタガヤノベルズ

agaya  
vels

## 世田谷をめぐるショート・トリップ

あの近所の公園や、小さいころ通っていた図書館が、実は「物語の舞台になっていた」と聞くと、なんだかワクワクしませんか。遠くへ旅行ができない今、ご近所、この世田谷で主人公気分を味わえる小説「セタガヤノベル」11冊を紹介します。

いつもの通学路や犬の散歩道が違って見えるかも！？



舞台は60年前、昭和時代の世田谷赤堤。

作者の幼少時の世田谷には、まだ舗装されていない土の道があり、そして本線と支線からなる東急玉川線・通称玉電(今の世田谷線)が走っています。今では私たちが目にするのことができない、たくさんの世田谷の光景が、本の中で広がります。その懐かしい記憶の中の世田谷をずっと留めておきたくてペンを執った作者。そんな作者の案内で、世田谷時間旅行ができる一冊です。



中学3年の中にもには誰にも言えない秘密があった。それは、背中に翼が生えているということだ。受験を控えた夏休み、レンタルビデオ屋で隣人の石橋由子に遭遇する。彼女は、32歳のひきこもりニートだ。なれなれしい様子に中もは警戒していたが、翼の存在を知られ徐々に仲を深めてゆく。飛べない翼が生えている理由とは！？

中学3年生の多彩な「自意識」を投影した「飛べない翼」他3編からなる短編集です。

私はまったく勉強しない少年だったが、公園や空き地で遊び、渋谷のプラネタリウムや児童会館に行き、野球場やプロレス会場に足を運んだ。自転車に乗って梅丘図書館にも行った(隣接した羽根木公園にある交通公園で自転車を乗り廻すのも好きだった)。図書館では古い新聞の縮刷版を見るのが好きだった。(173ページより)



玉電松原物語  
坪内祐三 著  
新潮社



プラネタリウムの上映が始まって五分もたたないうちに、隣のシートからクマのようなイビキが聞こえてきた。(中略)

この教育センターのプラネタリウムは、小学生の頃に課外授業で見学に来たことがあったはずだ。はずだ、というのは、そのときのことあまり印象に残っていないので、いつだったのか思いだせないせいだ。(97〜98ページより)



プラネタリウム  
梨屋アリエ 著  
講談社



三軒茶屋のパン屋

真夜中のパン屋  
さん

大沼紀子 [著]  
ポプラ社



下北沢の  
ボクシングジム

一瞬の夏  
沢木耕太郎 著  
新潮社



三軒茶屋  
三宿ほか

火花  
又吉直樹 著  
文藝春秋

この本も  
世田谷が  
舞台です

10代のための講演会 8月7日教育センターにて開催

# 池澤春菜さんが語る SF 文学 声優



声優・エッセイスト・書評家として多方面で活躍されている池澤春菜さんをお迎えして、10代向けの講演会を行いました。

「SFとは何の略でしょう？」

「100年後空を飛ぶ乗り物は？」

想像をかき立てる質問に答えていくうちに、SFの世界に引き込まれていく講演会でした。

SFは可能性の物語であることや、想像の赴くままにどんなことも可能になる世界です。そんな、SFの魅力を熱弁していただきました。

## 声優の仕事とは

「声優とは、声だけで世界を作り上げる仕事。経験ないことを表現するためには想像力、妄想力が重要になる」といった大変貴重な講演でした。

講演会の最後には、池澤さんが宇宙空間での生活を書いた『オービタル・クリスマス』を朗読してくださいました。

アンケートからは、「声優になる夢を実現するために何が大切か分かった」「SFは可能性の物語という言葉が印象に残った」などの感想をいただきました。終了時間を延長するほどの充実した内容で大盛況の中、講演を終えました。

池澤さんの著書や紹介された本は世田谷区立図書館でも多く所蔵しています。ぜひ読んでみて下さい。

## ミニ情報

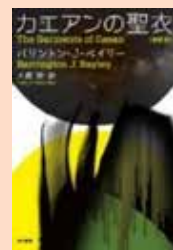
池澤さんが書かれた『オービタル・クリスマス』はウェブサイトを読むことができます  
<https://web.kawade.co.jp/bunko/6199/> (河出書房新社のオウンドメディア Web 河出)

## 池澤さん厳選!! 読んでおきたいSFの本

### 『カエアンの聖衣』

バリントン・J・ベイリー著

冬川亘 訳 早川書房



### おすすめポイント これぞSFの古典!

気弱な男が最強の力を手に入れたら!? 物語の鍵を握るのは1度着るとたちまち自信が湧いてくるカエアン製の「フラクショナル・スーツ」。主人公のペデルはある日難破船からスーツを盗み出し、人格が変わり成功者の道を歩み始めます。

SFの要素がふんだんに盛り込まれた物語です。



Setagaya Digital Library  
世田谷区電子書籍サービス

世田谷区図書館では、電子書籍サービスを行っています。

このサービスでは、スマホやタブレットなどのインターネット接続環境があれば、無料で読書を楽しむことができます。文字の大きさを調節したり、読み上げソフトで聞きながらの“ながら読書”も可能です。

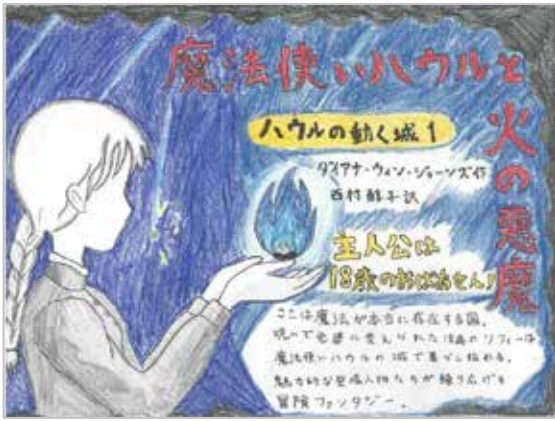
紙の本の形態では読むことが難しい人も、読書を楽しむことができます。

登録さえすれば、無料で利用することができますよ!

利用には事前に利用申し込みが必要です。名前がわかる証明書(学生証・生徒手帳など)をお持ちの上、世田谷区立各図書館・図書室・図書館カウンターに来てください。

- 貸出数 2点まで
- 貸出期間 2週間
- 予約数 2点まで
- 予約取置期間 1週間

\* 図書館共通利用カードをお持ちの、世田谷区在住・在学の方が登録できます。  
\* 利用するには、インターネット接続したPC・スマートフォンなどの端末が必要です。



POPは  
山本舞夏さんの  
作品です



魔法使いハウルと火の悪魔 (ハウルの動く城 1)  
ダイアナ・ウィン・ジョーンズ作 西村醇子 訳 徳間書店

# 読書リーダーが描く おすすめ本POP

読書リーダーは本と人を繋げる“子どもの司書”です！  
読書好きがすすめる本は本当に面白いのか読んでみて



POPは  
A.M.さんの  
作品です



かがみの孤城  
辻村深月 著 ポプラ社



POPは  
矢田悠さんの  
作品です



坊っちゃん 夏目漱石 作  
※本の写真は岩波少年文庫 (岩波書店) です



POPは  
H.Y.さんの  
作品です



100円のコーラを1000円で売る方法  
永井孝尚 著 KADOKAWA



POPは  
吉岡璃音さんの  
作品です



おしまいのデート  
瀬尾まいこ 著 集英社

## web 部活物語

部活動を舞台とした物語の中で、  
中学生や高校生の皆さんにおすすめしたい本です

「部活物語」は、部活動を舞台とした小説・物語の中で、中学生や高校生の皆さんに特におすすめしたい本を選んだブックリストです。  
一部は世田谷区電子書籍サービスでも読めます！

### 野球部

グラウンドの空  
あさのあつこ 著  
KADOKAWA

### 水族館部

長浜高校水族館部！  
令丈ヒロ子文  
紀伊カンナ絵  
講談社

### シンフォロ部

ゆけ、シンフロ部！  
堀口泰生小説  
青木俊直絵  
学研プラス

電子書籍サービスはweb 部活物語以外にも多くのティーンズ向けコンテンツを用意しています。図書館電子書籍サービスにアクセスしてみよう。



# 物語は世田谷から



風が強く吹いている  
三浦しをん 著  
新潮社



ラン  
森絵都 [著]  
KADOKAWA/角川文庫  
(理論社・講談社版もあり)



窓ぎわのトットちゃん  
黒柳徹子 著  
講談社



寛政大学4年の清瀬が、行きつけの銭湯「鶴の湯」の風呂上がりに見つけた、俊足万引き犯の走(かける)。この走との出会いにより、清瀬の4年がかりの計画がスタートする事となる。それは、「箱根駅伝」参加を目指すという一大プロジェクト。この無理難題な野望に、清瀬の計画を知らずして入寮した寛政大学「竹青荘」の仲間たちが巻き込まれることに。そんな、駅伝とは無縁の生活をしてきた彼らが、清瀬の「走る」という情熱に押され、走り出します。



40キロ走ると、死んでしまった家族に会える!?  
子供の頃に家族を亡くして以来、1人ぼっちで生きてきた環。ある日、不思議な道「レーン」に迷い込みますが、その先には、死んだはずの家族がいました。  
家族に会うためには、40キロあるレーンを走り抜ければいけないと知った環は、個性豊かなジョギングチームのメンバーとともにマラソンの練習を始めます。



トットちゃんが通うことになった「トモエ学園」は、とっても風変わりな学校でした。教室は本物の電車の車両、時間割はなし!好きな科目から勉強しているのです。トットちゃんたちトモエ学園の生徒は、ある金曜日「はんごうすいさん」をしに、等々力溪谷に全校生徒で出掛けていきます。  
第二次世界大戦の前にあったトモエ学園ですが、今こそ、こんな学校があったら素敵だと思います。

竹青荘は、京王線と小田急線に挟まれた、こぢんまりとした昔ながらの住宅街にある。大きな建物といたら、寛政大の校舎ぐらいいいかない。最寄り駅は、京王線だったら千歳烏山、小田急線だったら祖師ヶ谷大蔵城学園前だが、どの駅からも中途半端に遠い。歩くこと二十分以上かかるので、バスや自転車ですら向かうひとが多かった。(文庫版 62〜63ページより)

救いは、コースの景色が変化に富んでいたこと。走りだしてすぐに陸橋を渡り、時計と逆回りにゆるやかなカーブを描いていくと、やがて左手に大きな建物があらわれる。右手には、閑静な住宅街。緑豊かなこの一帯では随所に巨木が根を張り、その青々とした枝葉が強い陽射しから私を守ってくれる。(文庫版 135ページより)

いよいよ、その日が来た。電車から降りて、みんなが、等々力溪谷に到着すると、林の中で、校長先生は生徒を見た。高い木の上から射し込む光の中で、子供たちの顔はピカピカと光って、可愛かった。どの子もリュックサックをふくらませて、校長先生のいう事を待っていた。生徒たちの、うしろには、有名な滝の、豊かな水が、力強く、そして美しいリズムを作っていた。(文庫版 240ページより)



世田谷の女子校

終点のあの子  
柚木麻子 著  
文藝春秋



駒沢公園

いやいやえん  
中川李枝子 著  
大村百合子 絵  
福音館書店



農大通りほか

泣き終わったら  
ごはんにしよう  
武内昌美 著  
小学館

